

今月の論語

ふる
故きを温ねて
たず
新しきを知る

古いことを研究すると、
新しいことがより良く
わかる

今月の掃宅放送は、東原摩舎東部校9年 豊川小太郎さん(東多久町)です



(五) 枅ます
左の写真は歴史民俗資料館に展示する一斗(一斗十升=百合斗18斗)枅です。枅の底面に「慶応四年」の墨書(標題写真)があります。木部寸法は縦31・8×横31・8×深18・4cm、弦鉄(斜めに渡る鉄)寸法は幅0・7×高1・8×長44・3cm、木部体積18606・8cm³、弦鉄体積55・8cm³で、この枅の体積は18551・0cm³となり、規定の18斗を約0・55斗超えています。
江戸時代に、幕府は江戸と京都に枅座を設置し、枅の製造・販売・検定をさせていました。しかし、明治八年(1875年)の度量衡取締条例によって枅座を廃止し、検定は政府が行うことになり、検定不合格の枅には「廢」の字を刻印しました。

資料館にある枅にも三箇所に廢の刻印があります。慶応四年(1868年)の製作と考えられるこの枅は、明治の度量衡改革で、十年余り使用された後に廃棄されたようです。維新の改革を体現した貴重な資料です。
多久市郷土資料館長 藤井 伸幸

(九月改元明治元年)

江戸から明治へ、肥前たく幕末維新百五十年

教育

教育長コラム

ちよっといい話



「成人式」

中学生の頃、やんちゃだったM。17歳の時、無理矢理乗せられた車が事故を起こし、倒れた電柱の下敷きになった。私は、集中治療室に通り詰めたが40日後にMは帰らぬ人となった。水を張った田からすつと伸びる稲が風にそよぐ季節だった。
3年後、Mと同じ歳の生徒たちの成人式の招待状が届いた。すつかり大人になった教え子たちとの再会。親になった者もあり、中学時代は遠い過去となっていた。
しかし、Mだけが、丸刈りに剃り込みをした学生服の中学生。そのまま遺影となつて、私の膝の上でこの日を迎えた。はかない命。限りある人生。多くの方々のおかげで「成人式」を迎えられたことに感謝するきっかけになればと願う。

教育長 田原 優子

市民文芸

傷ついて力を合わせて立ち上がる
そんな人生選択したい
野崎 隆幸

つぶらなる瞳でわれをじつとみる
曾孫は生後七十五日
福島那智子

銀杏葉のひと夜の雨に散らされて
平成最後の秋を惜しむなり
梶原恵美子

川原に下りたち採りし数珠玉よ
音楽らかく掌の中になる
川浪 信子

朝光にくもの巣ゆらりきらめけり
通せんぼされ回り道する
浦野 嘉恵

短歌 《妻の芽短歌会 互選》

罐蹴れば「かん」と響くや冬の空
倉成 皓二

煮凝りの美肌効果や箸進む
おおやはな

孔子像冬木の山を背にし
中嶋 清子

水の中木賊まつすぐ枯れるあたり
武富 律子

逃げ易き夕日引き留め石露の花
大石ひろ女

元号が変わる希望の初日の出
松下 修

年号を西暦に替え年賀状
中尾 和弘

戦場に息子を送った赤い紙
田代まつこ

赤い糸もつれて切れた青春期
古賀ちひろ

少しでも若く見せたい赤い服
田中久美子

川柳 《多久市川柳会 互選》

川柳 《多久市川柳会 互選》

少しでも若く見せたい赤い服
田中久美子